

1. 評価結果概要表

平成 20年 7月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2073400588		
法人名	有限会社エム・ティー商会		
事業所名	グループホーム虹の郷		
所在地	長野県長野市豊野町豊野699 (電話) 026-257-6338		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年7月26日	評価確定日	平成20年8月25日

【情報提供票より】(20年 6月 30日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 8月 3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人	非常勤3人 常勤換算15.5人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨2階建 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	79,500 円	その他の経費(月額)	43,500 円
敷 金	有 (159000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (238500円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要 (6月 30日 現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名	
要介護1	4名	要介護2	3名			
要介護3	6名	要介護4	4名			
要介護5			要支援2			
年齢	平均	85 歳	最低	73 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	轟病院
---------	-----

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊野駅から少し高台にある新興住宅地の中に当ホームはある。少し大きめの建物でスロープが二方向あることや数台が停められる広めの駐車場を見ると、ここがホームだと確認できるくらい周囲の環境に溶け込んでいる。過ってホームの庭に植えられた樹木は4年目を迎え、勢いよく成長し日陰をつくり入居者や職員、来客者等に潤いをもたらしている。そこで働く職員は開設当初とは替わっているが“虹の郷”をしっかりと引継ぎ入居者を敬い、職員同志切磋琢磨し日々励んでいる。重度化や終末期に関しては明確な方針はまだないが協力病院の医師と24時間連携がとれることや専門医療機関とも相談できる関係が構築されているので入居者も家族も安心して生活できている。ホームが入居者や家族、地域と住み慣れた地で暮し続けることなどの虹の架け橋になれることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流に関しては地域に受け入れられるホームを目指し地域の活動に積極的に参加し住民とお付き合いを深めてきた。居室作りには入居者家族と相談しながら本人の好む物を増やしてきた。入居者の入居前の情報収集に関しては家族が記入する項目を作りより多くの情報が得られるようになった。それを介護計画に活かしている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は二回目であるが、自己評価を初めてする職員が多いため項目内容を説明したり、話し合いながら全職員で取り組んだ。日々の業務を振り返り、見直しや職員間の意識合せが出来て、サービスの質の向上や職員の資質向上にも活かされた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者家族、地域代表者、行政担当者、ホーム職員で構成されているが、昨年二回開催したあとはホーム側の都合で中断している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者家族の来所時に個別に利用者の生活ぶりや健康状態についてなるべく話をする機会を作り、金銭管理などについても確認印を行えるように努めている。家族の意見や苦情、不安への対応として定期的な家族へのホーム便りなどを利用し、今回の利用料改訂など家族の不安への対応や、意見などが具体的に聞けるような体制作りが望まれ、しいては運営に反映され家族との信頼関係を築くことが出来るよう期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の草取り作業、ごみステーション当番などに参加しながら地域住民とお付き合いを深める努力をしている。また、ホーム代表者は自治会に参加し、地域との関わりを積極的に持つようになっている。今後、地域の住民とホームの行き来が気軽に出来、しいては災害時などの協力支援体制の構築につながることを期待したい。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「その人らしい暮らしの支援、入居者が地域社会のつながりの中で日常生活を継続していくこと」等を基本とし、地域の中に溶け込む暮らしを目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの意義を管理者は全職員に説明している。朝夕の引継ぎ、カンファレンスや職員会議等で日々のケアを振り返り、理念に基づいたものなのか確認している。職員はホームの理念を自分の言葉で語ることが出来る。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の草取り作業、ごみステーション当番、総会などに参加し地域住民とお付き合いに努めている。ホーム代表者は自治会に参加し、地域との交流を更に深めようとしている。近隣住民や子供たちとは挨拶を交わすことを積極的に行っている。住民からはお花や野菜などを頂くこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を初めてする職員が多いため、項目を説明したり話し合いながら全職員で取り組んでいる。日々のケアの振り返り、見直しや職員間の意識合せが出来て、サービスの質の向上に役立てられた。		

グループホーム虹の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は今までに二回開催されたが現在は中断している。</p>		<p>事業所内の様々な問題解決のために、また地域交流促進のために、運営推進会議が再び開催できることを望みます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者には困った時や迷う事例などその都度相談して、気軽に相談できる関係である。介護あんしん相談員が毎月訪問している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に一回以上入居者家族と連絡を取り合い、健康状態や日々の暮らしの様子を電話で報告している。また来所時には介護計画やお小遣い帳を見ていただき確認印をもらっている。職員の異動があればその都度伝えている。昼食も家族に食べていただきホームの様子が伝わるように努めている。</p>		<p>ホームの活動など暮らしの様子がわかる“ホーム便り”や献立内容に関しては、利用者家族にとっては関心の高いものと思われるので前向きに検討されることを望みます。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの玄関にはご意見箱が設置してあるがあまり活用されていない。利用者の家族が来所したときにはなるべく声かけをし家族の意見など聴取できるようにしているが、利用料など変更もあり家族の不安や思いなど表だし出来る工夫も職員は必要と感じており、今後の改善に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に各ユニット職員の異動はない。馴染みの職員によるケアの提供を大切にしている。離職で職員が新しく入る場合には細心の注意を払いホーム内の雰囲気が変わらないように努めている。入居者や家族に新しく入った職員の紹介を必ずしている。</p>		

グループホーム虹の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人研修、継続研修と職員育成計画がある。外部研修は交代で参加している。研修受講後は職員会議などで報告し共有している。職員はわからないことなどがあれば職員間で教えあったり、職員会議で話し合うこともある。勉強会は学習委員が中心となり計画している。新人教育は(OJTを採用している)仕事をしながらトレーニングを受けている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>開設当初には同業者との交流に参加していたが現在は職員の異動などがあって参加していない。親しくお付き合いしている近くのグループホームとは時々連絡を取り合っている。</p>		<p>地域の同業者との交流が再会されて相互交流・研修や勉強会の機会が訪れることを願っています。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>出来る限り利用希望者にはホームを見学していただき、雰囲気を感じてもらいたい。その上で本人が納得してから利用を開始することの大切さを利用希望者・家族に説明している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の生活歴や得意なこと、好きなことを家族から情報を得て職員は把握しているので、時々入居者の出番を作っては、入居者から得意なことを教えてもらったり、話を聞いたりして、支えあう関係作りを努めている。</p>		

グループホーム虹の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>今日はどうしたいのか、何をしたいのかは毎日の会話の中から聴くようにしている。それが難しい場合は職員間で話し合ったり、家族からも話を聞き本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族から希望や意向を聞いた上で全職員で話し合い、介護計画を作成している。担当制になっているので、職員は担当する入居者の観察をしっかりと行い担当者会議で気づきを報告している。作成された介護計画は入居者家族に説明し同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに担当者会議を開き見直しをしているが見直し前であっても入居者の状態変化や状況が変わればその都度、担当者会議を開き、計画の内容を変更し新たな介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院や買い物など外出が必要な時には家族に代わり付き添うなど入居者の状態や要望に合わせた柔軟な支援を行っている。</p>		

グループホーム虹の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医との関係は入居後も継続し定期的を受診している。入居時には健康診断書を提出してもらっている。協力病院の医師の往診は月2回行われている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期の入居者については、早い段階から家族と話し合い医師とも相談している。重度化した場合やターミナルの入居者を今後受け入れていくためには訪問看護との連携も必要と考えている。また、ターミナルの研修を受講した職員もいる。利用者家族からは最期までお願いしたい、見てもらいたいという要望もある。</p>		<p>重度化した場合や終末期等についてホームとして統一した方針を示されることを望みます。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者一人ひとりを尊重し、プライバシーに配慮しながら支援している。個人情報の取り扱い、プライバシーの保護等に関しては職員会で話し合い、全職員意識向上につながるよう取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>おおまかに一日の流れ、一ヶ月の予定、年間計画はあるが、入居者のその時のその日の様子などで柔軟に対応している。入居者の要望や希望に沿う支援に心がけている。</p>		

グループホーム虹の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が入居者の力量を見ながら一緒に買い物、調理の手伝い、片付けを行っている。食事中は皆で作った料理の出来栄などを褒めあい、和やかに食事をしている。献立表は入居者の希望を取り入れながら作成している。また誕生日を迎える入居者がいれば好みや要望を聞き献立表に入れている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	「さん、今日は何曜日なのでお風呂の日ですよ」と一人ひとりにあつた声がけをして入浴を促している。開設時は入浴したいときに入ってもらっていたが現在は心身の低下等で職員が声をかけるようになった。入浴中は職員が付き添うことで安心してながら気分良い入浴になるよう取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事を中心に入居者の力が発揮できる場面を工夫し達成感、満足感等につながるよう支援している。季節ごとのドライブ、買い物など時々遠出を計画し気分転換の支援をしている。また、入居者の中には入居前と変わらず日曜ごとに教会へ行っている。一人ひとり入居者の張りのある生活が入居後も継続できるように積極的に取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的にホーム周辺を散歩している。徐々に機能低下で、車椅子の入居者が増えているが以前と同様、職員と共に散歩に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることで入居者に弊害をおよぼすことを職員は認識している。外出傾向の入居者がいる場合は職員間で連携を取り合い、鍵を掛けないよう工夫している。		

グループホーム虹の郷

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防署の指導を受けながら防災訓練を行っている。避難訓練、消火器の取り扱い、通報の仕方、緊急連絡網の確認も同時に行っている。</p>		<p>災害に関してはホーム職員だけでは対応できないので地域の人たちの協力が得られるように自治会や運営推進会議で協力をお願いしていくことを望みます。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>摂取量や水分量をチェックしており、職員は入居者一人ひとりの食べる量や水分量をおおまかに把握している。入居者の状態に応じ食形態を対応し十分に栄養摂取ができるよう取り組んでいる。栄養バランスに関してはホーム職員の管理栄養士が担当している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関を入った奥に食堂兼談話室があり、木材がふんだんに使われているホームである。食堂の2つのテーブルには2~3人の入居者と職員がおしゃべりしたり歌を歌っている。一段と高い置のコーナーには横になって休んでいる入居者。思い思いの自分の場所で居心地良く過ごしている。ホームの横にはデッキがあり天気の良い日にそこでお茶を飲んでいると住民が声を掛けていくこともある。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具や三面鏡、テレビ、時計、人形などの他、家族の写真が飾られていた。入居者が自室と分かるように、のれんがかかる居室、手作りの表札風の飾りがある居室と個々に違う。居心地よく過ごせる居室作りに取り組んでいるが、二名の入居者は夜間、畳コーナーであれば落ち着いて眠れるため家族とも相談した上でそっと見守っている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。